

風や光を感じる、機能的な非日常の空間。

デザイナーに訊く ②

小坂 竜 (乃村工藝社)

PHOTOGRAPHS BY YASUHIRO TAKAGI TEXT BY TOSHIYA MURAOKA

皇居の緑から赤坂界限など、贅沢なランドスケープを俯瞰する平河町森タワーレジデンス。そのインテリアデザインを手がけた小坂竜さんは、「モダンでシンプルでありながら贅沢な体験」こそが、全体を貫くコンセプトだと語る。

「特にこの最上階のレジデンスでは、風や光が感じられる＜外部空間との関係＞をテーマに掲げています。その実現のために、高層階では珍しいかなり広いルーフトラスをレイアウトしました。大きな植栽やソファを置いてもいい。都心のど真ん中の23階で、風に触れることのできるこのテラスはとても贅沢な存在ですからね」

風、だけではない。自然光との関わりについても繊細なデザインを施している。例えばエントランスとリビングの間仕切りには、ガラスでファブリックを挟み込んだ透過性のある可動扉を配置。それと呼応するように、窓側にはカーテンとは別に、美しく光を透過するホワイトオニキスという石でできた可動壁をつけてやわらかく光を遮る役割を持たせている。「考え方としては可動の屏風のようなものですね。このオニキスが窓辺にあることによって、光がより意識されるようになるはず。あるいは、寝室とセットになったバスルームからも空間の広がりを感じられるよう、両者の仕切りにガラスを用いました。レジデンスでは水回りが奥へと追いやられがちですが、今日は晴れてるか？ いまの陽の高さは？ とバスルームにいても天気や時間が感じられるよう、リゾートホテルのアイデアを落とし込みました」

平米計算をすればもうひと部屋を優につくれるほどゆとりのある空間。そこに創り出されるのは、非日常の贅沢な体験だ。ホテルやレストランなど商業空間を数多く手がける小坂

さんらしい演出が、レジデンスとしての機能を担保しつつ、細部にいたるまで施されている。

「テーブルについたとき、キッチンがステージのように見える工夫はレストランから来ています。アイランドキッチンには洗い物のためのシンクではなく、レンジを配した方がコミュニケーションが生まれるだろうと。そんな具合に、リビングはキッチンを軸に作りました。そのため換気フードも機能的な金属のダクトではなく、柔らかに光らせることでインテリアの延長として見せています」

日々の作業のためにはサブキッチンを用意するなど、モダンかつシンプルなレイアウトを徹底して極めながらも、レジデンス全体は温かく落ち着いた上質さに包まれている。

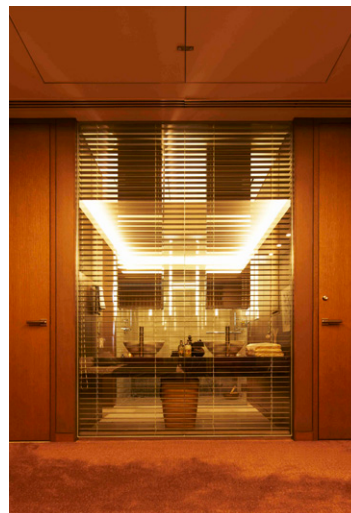
「鍵は、“素材”と“色”。このふたつが上質さを支えています。例えばキッチンカウンターの天板には、青い結晶を内包した石を用いているため、光の加減によってしっとりと淡い青が浮かびあがります。あるいは、寝室の壁に配したレザーが、温もりのある静けさを演出する。贅沢な素材を的確に使いつつ、レジデンス全体では『何色』とはっきり言い表せないような中間色を個性に、ベージュ系のグレーとダークブラウンをテーマカラーにすえました。非日常を生み出すのは、目を引く鮮やかな色だけではない。高級感のある淡い色こそが、非日常と上質さを共存させてくれるんです」

高い天井に、余裕のあるレイアウト。そのシンプルにして贅沢な広がり小坂さんが生み出したのは、非日常を感じさせる、豊かな日常のためのデザインだった。一見相反するふたつのスタイルが、“上質”であることにより、希有なバランスをもってこの空間の中に成立している。



PHOTOGRAPH BY TAKESHI SHINTO

小坂竜／1960年東京都生まれ。武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業後、株式会社乃村工藝社入社。現、商環境事業本部 A.N.D.クリエイティブディレクター。「新丸ビル」の環境デザインや、「マンダリン オリエンタル東京」のメインダイニングなど、多くの物件を手がけている。



パウダールーム & バス



洋室からバルコニーをのぞむ



壁の革張りが印象的なベッドルーム



キッチンを中心に考えられたリビングダイニング。シェフを招いたパーティーなど、贅沢な使い方を想像させてくれる。窓には光を透過するホワイトオニキスという石のパネル。ダークブラウンとホワイトの空間に、アクセントを加えている。

平河町森タワーレジデンス



広々として落ちついたエントランスホール



和紙風のガラスが印象的なエレベーターホール



皇居から丸の内を一望するオープンデッキ

平河町は、江戸の昔には旗本が、明治に入ると政財界の有力者や文化人が屋敷を構えた由緒正しい「特別なアドレス」。春には英国大使館から千鳥ヶ淵へと河のように連なる桜も堪能。丸ノ内が一番近いMORI LIVINGだからこそ味わえる贅沢です。

お問い合わせ：
TEL 0120-52-4032(森ビル株式会社 住宅事業部)
www.moriliving.com